



一本一本みんな違う
思ったように倒れてくれない
ヒノキの枝って強いなあ！

伐倒作業でかかり木処理に悪戦苦闘する受講生（さが林業アカデミー「林業講習会」での実習の様子）

《林政だより》

・林業 PR 動画を YouTube に公開！……………2

《林業ひろば》

・第 8 回さがの木の住まいコンクール受賞者決定……………3

・森川海人っフェス！を開催……………4～5

・佐賀県山林苗畑品評会開催！……………6

・佐賀県庁（林業職）インターンシップを経験して……………6

・小さな林業の形……………7

・NPO とす市民活動ネットワークのご紹介……………8

《普及だより》

・厳木小学校 5 年生を対象に森林教室を開催……………9

・伐木等業務特別教育講習会の実施……………10

《林試だより》

・「研究フォーラム 2022」を開催……………11

《裏面》

・表彰者等、緑の募金、お知らせ……………12



はじめに

森林は、木材の生産をはじめ、水源のかん養や土砂の流出防止、二酸化炭素の吸収など、私たちに様々な恩恵を与えており、将来にわたって守り育てていくことが重要です。森林を適切に整備するためには林業就業者の存在が欠かせませんが、県内においては平成23年度からの10年間で6割まで減少しました。県内の森林を持続的に守り育てていくため、林業就業者を増やしていく必要があります。

林業への就業が進まない背景には、林業に対するネガティブなイメージ（3K、仕事内容が分からない、など）が浸透していることが挙げられます。また、就職・転職を検討されている方にとっては、仕事のやりがいや将来性、就業時の研修制度や支援等については気になる部分です。林業を就業の選択肢に入れてもらうためには、これらの情報をいかに発信するかが鍵になると考えます。

そこで県では、林業に興味があり就業を検討されている方に対して、現代的林業の働き方・やりがい・研修制度等をしっかりと伝え、就業検討者の理解と興味を得ることで就業促進につなげることを目指してPR動画を制作し、2月からYouTubeでの公開を開始しました。

インタビューで見えてきた就業者の想い

林業のやりがいや魅力をお伝えするには、私たち行政が説明するよりも、実際に働いている方々の“リアルな声”の方が、想いも込められてしっかりと伝わると考えました。また、就業検討者の中には、移住・異業種からの転職・女性の方もいらっしゃいます。そこで、動画制作にあたっては、このような方がいらっしゃる県内事業者4者にご協力いただき、実際に働いている姿を撮影しインタビューをさせていただき、動画に皆さんの姿をふんだんに盛り込みました。ご協力いただいた事業者、就業者皆さんのおかげで、他のPR動画と比較しても充実した内容となっており、就業検討者にとって“自分ごと”として視聴できる内容に仕上がっています。また、若い方にも興味をもって視聴してもらえるように、全体的にポップさを印象付ける洗練されたデザインにし、林業就業の入り口の敷居を下げるように工夫しました。

さて、インタビューには筆者（福井）も同行させていただきましたが、そのインタビュー内容や事前のアンケート結果から見えてきた就業者の想いがありましたので、ここでご紹介します。（※筆者の主観的な意見であることをご承知おきください。）

(1) 林業に興味を持ったきっかけとして、「自然や山、木材等に触れた原体験」があった方が大半でした。

➡事業者や行政で開催している小学生向けの森林体験教室等は、原体験を提供する点で有効だと言えます。

(2) 就業時に、体力面での不安や、仕事についていけるか不安を抱いていた方が大半でした。

(3) 「体験会など、就業前に実際の作業や職場環境を体験できたのがよかった・オススメする」という方も少なくなかったです。

➡さが林業アカデミーや、事業者でのインターンシップは、就業時の不安を解消する点で有効だと言えます。

(4) 林業のやりがいとして「整備後に森林の状態が良くなったのを見ることで得る達成感」を挙げる方が多かったです。

(5) 「整備後に、森林所有者から『ありがとう！』と直接言ってもらえるのが嬉しい」という声もありました。

➡林業就業者の皆さんがどういった点にやりがいや魅力、時には不満を抱いているのか、事業者の経営者・管理者の方々が耳を傾けて想いに寄り添うことが、従業員満足度のさらなる向上に寄与すると感じました。

制作した動画は、右のQRコードを読み込むことで視聴できます。ぜひ皆さんのスマホ、タブレット、PC等の端末でご視聴いただき、出演されている現役就業者の皆さんのカッコイイ姿・リアルな声・想いをご覧いただき、高評価👍ボタンをいただければ、すべての林業就業者の応援につながると思います！

セミナー等でYouTube動画をご活用ください！

動画の冒頭では、県内の森林の状況、林業のサイクル、高性能林業機械等も解説しています。

各事業者や自治体等でセミナーや体験会を開催される際に、YouTubeにアップしている動画をぜひ活用いただき、就業促進にお役立ていただければ幸いです。

(林業課 企画振興担当 福井遼)



YouTubeでぜひご覧ください！



<https://youtu.be/s0Wnc3eG9WY>

第8回さがの木の住まいコンクールの受賞者紹介

県では、県産木材のイメージアップを図るため、県産木材をふんだんに使用し、「木の心地よさ」や「かっこよさ」をアピールできる魅力的なデザインの木造住宅及び木質空間を募集し、第8回さがの木の住まいコンクールを開催しました。

「新築住宅部門」と「木質化部門」(リフォームやリノベーション、内装木質化に関する部門)の2部門で開催し、32社51作品の応募から受賞者を決定しましたので、御紹介いたします。



新築住宅部門



最優秀賞
〔佐賀県知事賞〕
(株)田久保建設



優秀賞〔審査委員長賞〕
(株)坂井建設



優秀賞〔佐賀県木材協会長賞〕
(株)小淵建設



入賞〔サガテレビ賞〕
(有)江口建設



入賞〔佐賀新聞社賞〕
(株)TAKEKEN

木質化部門



最優秀賞
〔佐賀県知事賞〕
(株)マベック



優秀賞〔佐賀県木材協会長賞〕
(有)江口建設



入賞〔サガテレビ賞〕
良和建設



入賞〔佐賀新聞社賞〕
(株)小淵建設



さがの木の住まいコンクール
過去受賞作品はコチラから
“Life With Wood”

(林業課 林産担当 神原 光作)



森川海人くん

森川海人っフェス！の開催

令和4年11月20日（日）に「第4回森川海人っフェス！」を佐賀市のどんだんどの森ふれあい広場で開催しました。このイベントは「森川海人っプロジェクト」の取組の一環として開催するもので、県民の皆様へ森川海のワークショップや体験活動を通じて、森川海のつながりやその管理の重要性について理解を深め、森川海に対する県民意識の醸成を図ることを目的としています。今回から県産木材とのふれあいを通じて、県産木材の良さやその利用意義についての理解醸成を図る木育イベント「よかウッドフェスタ」と合同開催になりました。

主催者あいさつ

開会式では山口知事から「今までの「森川海人っフェス！」では「森」「川」「海」とテーマを変えてきたが今回は「人」をテーマに開催した。今回のイベントを通じて、「森川海はひとつ」という思いを多くの方々に共有していただきたい」とあいさつされました。



山口知事による主催者挨拶

森川海人っ感謝状贈呈式及び各種表彰式

【第5回佐賀県森川海人っ感謝状贈呈式】、【第66回佐賀県森林・林業・緑化功労者等表彰式】、【令和4年度国土緑化運動・育樹運動標語表彰式】、【令和4年度佐賀県緑化運動・育樹運動ポスターコンクール表彰式】、【第7回さがの木の住まいコンクール表彰式】、【第38回佐賀県児童・生徒木工工作コンクール表彰式】、【第30回県下工業高校建築設計競技表彰式】において17名の個人・団体に対して感謝状の贈呈及び表彰が行われました。式では山口知事が1名ずつ表彰をされ、記念撮影も行われました。被贈呈者の皆様、及び受賞者の皆様の今後益々の御活躍に期待しております。



森川海人っ感謝状被贈呈者との記念写真



木工工作コンクール受賞者との記念写真



佐賀県緑化運動・育樹運動ポスターコンクール表彰

ステージイベント等

ステージではプレオープニングとして葉隠太鼓保存会による和太鼓演奏が「森川海人っフェス！」の幕開けを飾り、会場の中央では見応えのある「棟上げ実演」が行われました。また、「ケイタクトーク&ミニライブ」では爽やかな音色と軽妙なトークが会場を虜にし、心地よい時間となりました。

佐賀の森川海を知る

会場には森川海に関する展示ブースや体験ブースが多数出展されました。

「森」では県産木材や木の実を使った工作体験や「左官・カンナ削り体験」など、「川」では、近くの小川で魚などを捕まえて観察する「水生生物観察会」、そして「海」では有明海の潟泥を使った工作を通じて潟泥のことを学ぶ「潟泥を知ろう」や松葉を使ったフレグランススプレー作りなどを行う「唐津南高校虹ノ松原ワークショップ」が出展されました。参加者は普段の生活ではなかなかできない体験を楽しんでいました。今回はさが農村マルシェも開催され、県産の農産物や加工品・お弁当を買い求める人達で大変賑わい、佐賀の森川海の恵みがギュッと詰まったイベントとなりました。

また、どんどんの森ふれあい広場と隣接するアバンセでは佐賀県フラワーフェスティバルも同日開催され、県内の花屋さんで腕を振った県産生花の豪華なフラワーアレンジメントの展示やフラワーアレンジメント教室が開催され、こちらも多くの人で賑わっていました。



棟上げ実演



左官・カンナ削り体験



水生生物観察会



潟泥を知ろう



さが農村マルシェ

おわりに

今回のイベントが多くの県民の皆様にとって佐賀の森川海に親しみをもってもらうとともに、改めて意識してもらうきっかけになったのではないかと思います。

(森林整備課 森川海人っプロジェクト推進担当 大野 尚多朗)

佐賀県山林苗畑品評会開催！



令和4年11月28日県内3箇所の苗畑を対象に、育苗技術と経営の改善意欲の高揚を図り、優良種苗の生産及び苗畑経営の改善向上を目的として、山林苗畑品評会を開催しました。



審査状況



知事賞
江口登司氏
苗畑

今回は、鹿島市、嬉野市、唐津市で苗木生産に従事されている3名が出展されました。

審査員は5名（審査長：林業課長）で、「品種系統」、「経営の合理化と創意工夫」、「保護」、「栽培」、「苗木の成績」などの項目で配点を設定し、各苗木生産者の苗畑で苗木の検測（高さ、径、重さなど）やヒアリングを行い、点数をつける方式で審査しました。

いずれの苗畑でも、苗木生産技術が非常に高く、経営や管理の工夫がしっかりなされ、常に向上心を持って取り組まれていました。審査の結果わずかな点数差で、唐津市七山の江口登司氏が知事賞を受賞されました。

受賞された江口登司氏につきましては、全国山林種苗協同組合が主催する全国山林苗畑品評会へ出展したところですが、好成績を収められますことを期待しています。

また、苗木生産者におかれましては、今後も引き続き苗木生産技術の向上とサガンスギ苗木生産拡大にご尽力されることをお願い申し上げます。
(林業課 造林間伐担当 福島 このみ)

佐賀県庁（林業職） インターンシップを経験して



私は、鹿児島大学で森林・林業について学んでいます。その中でも特に、成長の早い樹木の開発と森林生態系の保護について興味があります。佐賀県庁林業職のインターンシップでは、佐賀県が独自に開発した成長の早い樹木である「サガンスギ」の試験地を訪れることができました。現場では、サガンスギの毎木調査と植生調査、非破壊試験を行いました。また、サガンスギの形質予測について林業試験場で行っている研究内容の一部を知ることができ、大変興味を持ちました。

特に、印象に残ったのが、サガンスギの形質予測についてです。樹木を植えた後に形質を直接確かめる方法では、50年という長い期間が必要になりますが、現在は遺伝情報から早い段階で形質を予測するという手法が注目されていることを知り、佐賀県でその研究が行われていることに非常に興味を持ちました。また、サガンスギの形質予測をする上で、林業の育種の知識と合わせて、データを解析するときの手段としてプログラミングができると、効率的に解析でき、有用であることが分かりました。私は、今までにプログラミングを学んだ経験があり、そのような形で林業の技術開発に役立てることを知って、学ぶ上での目的意識がより強くなり、さらに勉強を進めたいと思うようになりました。

私は、日本が抱える林業の課題を解決したいという強い思いがあります。このように、林業の知識に合わせて、プラスαの知識をつけることで、林業の課題を解決できる可能性が高まるため、残りの学生生活はもちろんのこと、就職後も広い視野を持って、常に学び続ける姿勢を大事にして、積極的に行動していきたいです。

(鹿児島大学農学部農林環境科学科3年 穂高 響)



林業試験場内の研究室で職場体験中の穂高さん！



自伐型林業を実践

東京から U ターン後、富士町古湯に住みながら林業を勉強して約3年が経ちました信本（しのもと）です。

地域おこし協力隊としての任期も終わり、今後は林業家として生きていくことになります。最後の年は、小さな林業のスタイルを仲間達と実践することを目標に、「ふじ山守塾」という任意団体に活動を続けてきました。地域の方から林内作業車をお借りし、集材・搬出の技術を学びました。高性能林業機械とは違い、作業スピードが遅かったり、運べる丸太の量が限られていたり、制限はありますが、狭い作業道の道幅でも走行ができたりと、メリットも



林内車による集材・搬出作業

多く、自伐型林業のスタイルでは、必須の機械だと感じました。機械を触ったことのない仲間達も徐々に慣れていき、自分たちが伐採した木を運び、市場まで出荷する一連の流れを体感し、森林整備に貢献できたと感じました。

一方で、私個人の今後の働き方は、ふじ山守塾での活動に加え、個人の山主さんから直接施業を依頼していただき、狭い範囲の間伐などを行っていくつもりです。3年の期間で林業関係以外のつながりもでき、山主さんと出会う機会も増え、施業させていただけるお話も少しずつできました。

木工品で消費者とつながる

林業を広めるためには、もっと多くの方に山のことや林業のことを知ってもらう必要があると思います。残材を利用した木工品製作を行い、佐賀県内のイベントなどに出品し、木の器やランプシェードなどのインテリア雑貨を販売することで、山の暮らしや、林業のことを消費者に伝えていくつもりです。あくまで林業が主体ですが、その林業を広めるためにも木工品の製作以外にも、いろんなことにチャレンジしていきたいと思っています。



富士町の木で作ったランプシェード



(佐賀市地域おこし協力隊 信本 力哉)

佐賀県森林・林業・緑化功労者を受賞

木育（もくいく）事業などの活動を実施されている特定非営利活動法人とす市民活動ネットワーク（以下、当団体）が、令和4年度 佐賀県森林・林業・緑化功労者として認められ、令和4年11月20日（日）佐賀市のどんどんの森で行われた森川海人っフェスにおいて、山口知事から表彰状が贈呈されました。

当団体は、イベントや養成講座等の開催・運営を継続して行い、地域林業の振興に寄与されている功績が評価され、木育事業を始めて10年という節目の年に大変喜ばしい受賞になりました。



左から木村事務局長、鈴木代表理事、池上理事

実施されている主な木育事業

項目	名称	詳細
イベント	もくもく広場	毎月第3木曜日（フレスポ鳥栖内） 0歳児～3歳までのお子様と保護者を対象にした木製おもちゃで遊べる広場
	木づかいフェスタ	年に一度程度（次回は7月29日（土）にフレスポ鳥栖で開催予定） 子どもから高齢者までを対象に地元の学校・団体との木工体験等のイベントを開催
養成講座	木育推進員養成講座	森林・樹木・環境に関するイベントや木を活用したものづくりを企画・運営することができるスタッフを養成する講座
貸出事業	積木の貸し出し	佐賀県産木材の積木の貸し出し 1000ピース～（有料、事前予約）
出向事業	移動木育ひろば他	幼稚園・保育園・イベントなどに出向いて木の遊び・木工体験など実施（事前予約）

木育とは

ところで、「木育ってなんとなく知っているけど具体的には何？」という方も多いのではないのでしょうか。林野庁ホームページで木育についての記載を探すと、“子どもから大人までを対象に、木材や木製品との触れ合いを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学んでもらう”（林野庁ホームページ抜粋）とありました。

当団体が目指す木育

当団体では「①五感とひびきあう感性、②共感できる心、③地域の個性を生かした木の文化、④人と自然が共存できる社会、⑤木遊びで「つながる」人の輪」を育むことを目指されて

おります。イベントを一過性で終わらせるのではなく、定期的なイベントを通して参加者同士が「多世代交流の場」を提供する、活動団体等関係者間のネットワーク構築を促す、木育推進員を養成し指導者を増やすなど、人の輪を広げ人材を育てることで、木育をさらに発展させていく活動を継続して実践されています。

現在は、佐賀大学と連携して県産木材を使用した木製おもちゃの開発を検討されるなど、これまでの活動に満足することなく新たな取り組みにチャレンジされており、今後益々の御活躍を期待しております。



木づかいフェスタの様子



森林と私たちの暮らしについて講話

令和 4 年 1 2 月 1 日（木曜日）に巖木町の環境保全活動団体「中島水辺の交流とオアシスの郷づくり推進委員会」と協力し、唐津市巖木小学校 5 年生 8 名を対象として、森林が私たちの暮らしにどのように関わっているのかを学ぶ「森林教室」を開催しました。

農林事務所からは、プレゼンテーション資料を用いて、クイズや雑学を交えながら、意外と知らない森林の重要な働きや森川海のつながり、森林の機能を発揮させる手入れ（林業）などの話をしました。後日、森林教室に参加した子供たちにアンケートを取ったところ、「森川海のつながりについてもっと知りたい」、「林業をやってみたい。どうやったらなれますか？」といった感想をいただき、さらに詳しく知りたいと思えるほど興味を持ってもらえた様子でした。

森林の大切さを学んだ後は、森林整備課から佐賀県の取組「森川海人プロジェクト」の紹介を行っていただきました。取組説明に森川海人くんの PR も加わり、プロジェクトのコンセプトをしっかりと伝えることができました。



森林の話を聴く子どもたちクイズにも積極的でした



森川海人プロジェクトを森川海人くんと PR



休み時間に森川海人くんとふれあい

地域の里山・里川を守る活動を紹介

中島水辺の交流とオアシスの郷づくり推進委員会」が数年に渡り取り組んできた河川の外来種除去や、荒廃竹林の改良について、実際に現地まで足を運び、委員会のメンバーから子供たちに説明をしていただきました。巖木町のホテルの再生にも繋がった取組事例に子供たちも真剣に耳を傾けていました。



20 種類以上のさがの樹が植栽された現地を見学



保全活動前の写真と今を見比べてみる

地元の協力もあり、子どもたちにとって、より身近な話として「森林」のことを学ぶ機会にできたと感じています。

（唐津農林事務所 林務課 普及担当 中村克也）

伊万里有田地区森林・林業協議会の活動の一つとして、管内の高校生を対象とした林業就業促進対策事業を展開しています。この事業で、令和4年度から新たに伐木等業務特別教育講習を始めました。

令和4年7月21日（木）、22日（金）、25日（月）の3日間に亘り、学科9時間、実技9時間、計18時間の労働安全衛生規則の規定に基づく特別教育を伊万里実業高校農林キャンパスで開催し、伊万里実業高校森林環境科1年生、市町森林・林業担当職員、森林組合職員、伊万里木材市場職員等40名が受講しました。



伐木造材に関する知識（学科講義）



チェーンソーの点検整備（実技講義）

伊万里実業高校では、従前から2年毎に受講を希望する生徒を対象に自費で伐木等業務特別教育を受講させていました。学校では、校外実習でチェーンソーを使った伐木造材作業を行っていますが、チェーンソーを扱えるのは伐木等業務特別教育の受講修了者だけで、全ての生徒がチェーンソーを扱える訳ではありませんでした。令和3年度から本格的に林業就業推進対策を展開したのをきっかけとして、伊万里実業高校から校外実習でのチェーンソー操作の機会を全ての生徒に持ってもらうよう、伐木等業務特別教育の受講費用の助成の要望がありました。この要望に対して協議会は、令和4年度から伊万里実業高校森林環境科1年生全員を対象に林業就業促進対策事業として費用の全額助成による伐木等業務特別教育を実施することになりました。

また、併せて現場でチェーンソーを扱う機会が多い市町、森林組合、伊万里木材市場の職員や現場作業技術者の内、直近2年以内に新たに森林・林業に係る業務に就いた職員や新規雇用された職員へも対象を広げました。



チェーンソーの操作（実技講義）



伐木の方法（実技講義）

講習会では、高校生に交じって林業の現場で働いている大人が講習会に参加していることから、高校生は普段の授業とは違う緊張感の中で真剣な眼差しで講義に臨んでいました。

この講習会の受講を契機に学校や職場において、林業現場での労働安全衛生に対する意識の醸成と高校生の森林・林業関係への就職につながることを期待しています。

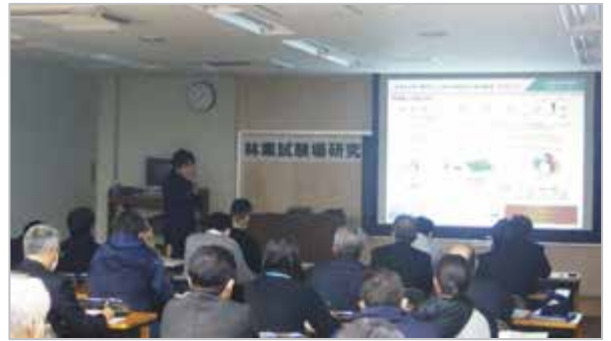
（伊万里農林事務所 林務課 普及・森林管理担当 淵上武俊）



「研究フォーラム2022」を開催

林業試験場では、研究内容や成果等について情報発信するとともに関係者と意見交換を行い、研究の推進及び森林・林業・木材産業の振興に資することを目的として、研究フォーラムを開催しています。

今年度は、令和5年1月16日（月）に当試験場3階講堂において「佐賀県林業試験場研究フォーラム2022」を開催しました。



江島特別研究員による試験研究成果報告

1 報告会

今回の報告会では、当試験場で約56年の歳月をかけて開発し、令和3年8月に品種登録を行った「サガンスギ」のこれまでの試験研究の成果等について報告しました。サガンスギは、従来のスギに比べて、樹木の成長が早く、木材強度が高く、花粉が少ないという優れた特性を持っており、今後の本県の森林・林業を支えていく次世代スギ精英樹として期待されています。

①サガンスギに関するこれまでの研究と今後の展望

はじめに、江島特別研究員から、サガンスギが開発されるまでの経緯や、DNA鑑定による品種鑑定の結果、450個体中27個体（6%）に誤りがあったことなどの報告がありました。また、検定林内の環境が樹高成長に及ぼす影響や調査データに基づいた初期成長予測、木材強度に関係があるマイクロフィブリル傾角の測定を九州シンクロトン光研究センターと共同で行ったこと、サガンスギの苗木を効率的に生産するため、令和5年度から新たな育苗技術の開発に取り組むことなども報告されました。

②サガンスギの材質強度特性について

次に、森口主査から、材質強度特性を調査するためのスギの採取方法や、伐採時（約30年生）における第1世代スギ精英樹（樹高15.5m）と第2世代スギ精英樹（樹高23m）の個体サイズの違いなどの報告がありました。さらに、ほとんどの製材品の曲げ強度、曲げヤング係数が高い数値を示しており、高い強度特性を持っていること、木材の部位や年輪幅によって木材強度が異なること、クローン間（品種間）で木材強度特性に違いがあったことなども報告されました。

③サガンスギの採穂園と穂木の供給等について

続いて、宮崎普及指導係長から、サガンスギの採穂園を拡張するため、採穂台木を令和4年度中に約1,700本を追加植栽することや、採穂台木の育成方法（樹形の誘導）、採穂園の管理方法（下刈、施肥、病虫害の防除など）などの報告がありました。また、苗木生産に向けた取組として苗木生産技術研修会の開催や苗木生産者への個別指導の状況、現在の穂木の供給実績と今後の計画、今後の課題としてサガンスギの関係する知的財産の保護が必要なことなども報告されました。

2 特別講演

特別講演では、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所関西支所の中尾勝洋氏を招き、「空からの情報を活用して立地環境に応じたスギの成長を予測する」という題目で御講演いただきました。中尾氏からは、ドローンを使って苗木と雑草の競合状態を把握することができることや、スギの樹高や林齢、環境条件などの関係を解析することにより、地位の推定や樹高予測ができることなどをお話いただきました。



中尾勝洋氏による特別講演

3 おわりに

今回の研究フォーラムでは、サガンスギの試験研究成果を報告しましたが、参加された皆さんからも、たくさんの質問が寄せられるなど、サガンスギに対する注目度や期待度の高さを実感することができました。今後は、サガンスギの苗木を効率的に生産できる新たな育苗技術を開発するとともに、サガンスギの早期普及を目指して、県内の苗木生産者への技術指導を行っていきたく思います。

（林業試験場 研究開発担当 山浦 好孝）

表彰者等のお知らせ

第66回佐賀県森林・林業・緑化功労者等表彰

- 個人の部 山口 和行（佐賀市）
- 個人の部 中島 清光（鹿島市）
- 団体の部 どんぐりこへの森を守る会（リコージャパン株式会社佐賀支社）
- 団体の部 特定非営利活動法人とす市民活動ネットワーク
- 優良緑の少年団 最優秀賞 嬉野町大野原緑の少年団
- 優良緑の少年団 優秀賞 唐津市外町緑の少年団

令和4年度国土緑化運動・育樹運動標語表彰

- 知事賞 戸石川 裕太（伊万里実業高校1年）

第30回県下工業高校建築設計競技表彰

- 知事賞 内山 瑠花（唐津工業高校1年）

第5回佐賀県森川海人っ感謝状贈呈

- 森の部 林業女子会@saga（佐賀市）
- 川の部 古川 陽進（唐津市）
- 海の部 袈裟丸 彰蔵（唐津市）

令和4年度佐賀県緑化運動・育樹運動ポスターコンクール表彰

- 知事賞 小学生の部 野田 秀真（佐賀大学附属小学校4年）
- 知事賞 中学生の部 中学生の部 兼光 系佳（大町ひじり学園7年）
- 知事賞 高等学校の部 真崎 結那（佐賀女子高校1年）

第38回佐賀県児童・生徒木工工作コンクール表彰

- 小学生低学年の部 知事賞 宮崎 俊太（嬉野市立五町田小学校4年）
- 小学生高学年の部 知事賞 宮崎 晴己（嬉野市立五町田小学校6年）

緑の募金活用事業の紹介 春期募金（3～5月）協力をお願い



緑の募金の活用について

（公財）さが緑の基金では、緑化の普及促進のほか、県民の皆様から寄附いただいた「緑の募金」を活用して、身近な地域の緑づくりや里山林等の整備を行う自治会やボランティア団体等に苗木代等の助成を行うほか、次世代を担う緑の少年団の育成を図るため、少年団活動の支援や環境教育等を行っています。

R3募金額52,821千円
皆さんご協力ありがとうございました



令和3年度は、地域の緑化事業や里山林の整備、樹勢が衰えた名木・古木6本の治療に助成するとともに、緑の少年団30団や森林づくりボランティア6団体の活動に支援するなどした結果、広葉樹6,599本、花苗7,782株の植栽や15.17haの里山林を整備することが出来ました。

募金協力をお願い

森林は、水源涵養や国土の保全、地球温暖化の防止、山や川・海における生物多様性の維持並びに県民に保養やレクリエーションの場を提供するなど多様な機能を有しており、この機能の維持・向上を図るためには、継続して森林の整備や緑化を進めていくことが重要となっています。

については、今年度も春期募金運動として3月1日～5月31日まで実施しますので、県民の皆様のご協力をお願い申し上げます。



佐賀県林業研究グループ連絡協議会の会長 平原実氏 急逝される



林業研究グループ「武内町親林会」の会長で、県林研連会長（R3～）の平原実氏が令和4年10月17日死去されました。（71歳）平原氏は、情熱をもって林研の活動や地域の活動に熱心に取り組まれていて、その暖かい人柄は、多くの人に親しまれていらっしゃいました。ここに謹んでご冥福をお祈りします。

（表紙の紹介）1月18日からさが林業アカデミーの「林業講習会」が始まりました。受講生は6名で、県内での林業就業に向けて3月6日までの間、林業試験場や嬉野県有林等で実習等を行い、刈払機・チェーンソー・高性能林業機械の資格取得などを通じて、林業の技術を身につけるべく勉強されています。（編集後記）林業アカデミーのお世話と記事編集が重なり今回はかなりハードスケジュールでした。また、10月から犬の散歩を朝晩1時間づつ続けています。体力勝負です頑張ります。（T.K）

Follow us!



「みんなで育てよう!さがの森林」
Facebook公式ページはこちら!
気になる方は「いいね!」しよう



<http://www.facebook.com/saganomori>

さがのよか木を応援する
「よかウッド」公式サイトはこちら!



<http://www.yoka-wood.jp>

編集・発行

令和5年3月1日発行
〒840-0212 佐賀市大和町大字池上 3408 番地
佐賀県林業試験場・佐賀県林業改良普及協会
TEL：0952-62-0054

※この冊子は、「佐賀の森の木になる紙」
を使用しています。

